

第7回支部通常総会を開催（河原支部長を再選）

（一社）日本建設機械施工協会中国支部の第7回通常総会は、5月14日ホテルセンチュリー21広島において、本部より渡辺業務執行理事を迎え支部団体会員73社（うち委任状24社）の参加のもとに開催し、役員改選（2年毎）では河原支部長が再選されました。



冒頭、河原支部長の挨拶では「一昨年の熊本地震、鳥取県西部地震、昨年の九州北部豪雨災害の発生、今年に入っても鳥取県西部地震や大分県中津市の土砂災害と自然災害が頻発しております。このような大規模災害に対しては、今まで以上に国土の強靱化を図ることが重要になっているとともに、住民一人一人がいかに関心・危機管理意識を持つかが重要となっています。また、南海トラフ地震の発生が現実味を帯びる中、高齢化が進む社会インフラの更新、老朽化対策と防災・減災対策を含めた総合的な取り組みが強く求められています。今年度の公共事業関係予算は前年度と同水準が確保されましたが、技術者や技能者の不足による生産性の低下といった深刻な問題も顕在化しています。

このような中、国土交通省では建設現場の生産性向上を目指す「i-Construction」を強力に推進しており、中国地整では昨年「ICT土工」を130件「ICT舗装」を20件実施されました。当協会においても、これまでにICTを活用した情報化施工について現地研修会や講習会等を通じ人材育成面での支援を行って参りました。今後も情報化施工を中心に「i-Construction」の普及・促進に向け、情報発信や人材育成等に取り組む所存でございます。引き続き会員の皆様方のご支援、ご協力を宜しくお願いします。」と、昨今の情勢を踏まえた中国支部の方針と会員への協力要請が伝えられました。

総会議事においては、平成29年度事業報告及び決算報告、平成30年度事業計画（案）及び収支予算（案）の審議が行われ、いずれも原案通り承認されました。



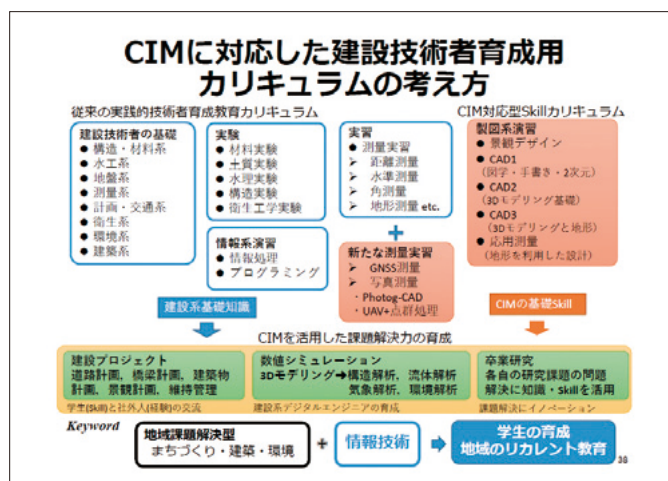
また、平成30年度「建設の機械化施工優良技術者表彰」では、会員各社から推薦された運転整備部門1名、管理部門5名、技術開発部門1名の計3部門7名の優良技術者に河原支部長より表彰状と記念品が受賞者全員に贈られ、支部長の祝辞と会場からの拍手で終了しました。

今年度の優良技術者表彰を受賞された方々は次のとおりです。

運転整備部門	岡 禎二：(株)原商 宍道工場
管理部門	梅本 環：大畑建設(株)
	難波 健司：沼田建設(株)
	藍澤 正直：五洋建設(株)中国支店
	篠村 芳男：鹿島道路(株)中国支店
	野間 清治：(株)NIPPO 中国支店
技術開発部門	畑 弘幸：奥村組土木興業(株)

総会に引き続き行われた講話では、中国地方整備局企画部長の吉田敏晴氏から「国土交通行政の最近の話題」と題し、平成30年度の主要事業及び主要施策が紹介されました。

また、記念講演では、松江高専環境・建設工学科教授の大屋誠氏から「i-Constructionによる建設技術者教育のイノベーション」と題し、CIMに対応したカリキュラムとして、UAVやGNSSの実習、3次元モデリングや3次元データの活用を導入するなどの新たな取り組みについて講演をして頂きました。(講演資料は一部抜粋)



日本建設機械施工大賞受賞について

日本建設機械施工大賞は、我が国の建設事業における建設機械及び建設施工に関する技術等に関して、調査・研究、技術開発、実用化等により、その高度化に顕著な功績をあげたと認められる業績を表彰するものです。また、地域賞部門は、地域に根ざした独自の視点に基づき、従来の施工方法・技術の改良、地域に普及させるなどの取り組みを通じて地域へ貢献している業績を表彰し、もって国土の利用、開発及び保全並びに経済及び産業の発展に寄与することを目的とするものです。

このたび当支部会員の奥村組土木興業(株)環境開発本部広島支店の『舗装工における3次元データによる出来形管理方法について(実証及び検証)』が、平成30年度日本建設機械施工大賞・地域賞部門の地域貢献賞に選ばれ、平成30年6月12日(火)ホテルアジュール竹芝(東京都港区海岸1-11-2)14階「天平の間」において表彰状の授与が行われました。

選考のポイントとしては、「いわゆるICT施工であり、今後の普及が大きく進展することが考えられる。広範囲な地域への展開が期待されること。」などが評価されました。

1. 業績の概要

国土交通省では全ての建設生産プロセスでICT等を活用する「i-Construction」を推進し、生産性を2025年度までに2割向上を目指すとしています。このような中、同社は平成29年度から新たに始まった「ICT活用試行工事(舗装工)」の取り組みを朝山大田道路での受注2工事において実施しました。特に、地上型レーザースキャナ(TLS)を用いた出来形計測の3次元データを活用した容易で効率的な「面的な出来形管理」の方法について、いち早く実証的な取り組みや検証を行い、任意の位置において即時かつ簡易に舗装厚の出来形計測を行う方法を確立したことが評価されたものです。

2. 業績の特徴

試行2工事ともに工事区間全延長を対象としていること。
また、TLS計測及びデータ処理・解析について、ほぼ自社社員による実施体制において行ったことに大きな特徴を有しています。

このような中、同社は、自動追尾型TSとタブレットPCを活用した舗装厚のリアルタイムな計測方法を確立しました。

この方法を試行2工事の施工中及び完成検査等において実際に適用し、その有効性を受発注者ともに確認したものです。

これは、早期に実用化と効果の発現を図ることを基本として、新たな開発を伴わず、うまく既存の機器やシステムを活用したもので、豊富な現場経験とICTの活用に向けた積極的な取り組みから生まれたものであり、着眼点の良さとその適用性を見極める技術力が評価につながったものです。同時に、先進的、実用的な活用事例として、建設現場の生産性向上に大きく寄与することが期待されています。



TSとタブレットPCによる現地検査(任意箇所)



基層上面TLS測量「面計測」(計測間隔40m)

第42回 新技術・新工法発表会開催

(一社)日本建設機械施工協会中国支部では、主催事業として支部会員各社の開発等による「新技術・新工法」について、広く関係各位の方々に発表、報告出来る場として、毎年2回の「発表会」を開催しております。今年度の1回目の「第42回新技術・新工法発表会」は平成30年4月26日(木)下記の内容で開催し110名の参加がありました。

本発表会の開催にあたり、国土交通省中国地方整備局、ならびに発表に参加いただいた会員企業の関係者の方々にはご協力を頂き有難うございました。

場 所：広島市まちづくり市民交流プラザ
(広島市中区袋町6-36)
北棟：6F [マルチメディアスタジオ]

講 話：

- ①国土交通行政の最近の状況と新技術・新工法の動向について

国土交通省 中国地方整備局 企画部 田村 実

- ②ICT舗装工と地上型レーザースキャナーを用いた面的出来形管理の方法について

(一社)日本建設機械施工協会 施工技術総合研究所 椎葉 裕士

技術発表：

- ICT, IoTを活用した舗装現場の新たな取り組み「N-PNext」

(株)NIPPO 総合技術部 梶原 寛

- 衝突軽減システム『K-EYEPRO』のご紹介～ 現場事故ゼロを目指して ～

コベルコ建機(株)営業促進部 小見山 昌之

- 建設生産プロセスにおけるIoTの活用 (株)ランドログ 井川 甲作

- CAT次世代油圧ショベル320のご紹介 日本キャタピラー(合)情報化施工推進部 小笹 剛志

(講師敬称略)

参加者の声 (アンケート)

アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。今後の開催に活用させていただきます。

- ①内容の理解：よくできた (33%) ほぼできた (65%) できなかった (2%)
②発表時間：長い (4%) 丁度よい (93%) 短い (3%)
③仕事への活用：活かせる (52%) 少し活かせる (35%) どちらでもない (13%)
④会場の利便性：良い (48%) 普通 (48%) 悪い (4%)
⑤会場の設備：良い (18%) 普通 (49%) 悪い (33%)
⑥今後の内容：品質確保 (17%) 老朽化対策 (16%) 災害・防災 (14%)
建設リサイクル (4%) i-Construction (26%) CIM (14%)
環境対策 (7%) その他 (2%)

(複数回答可)



「i-Constructionセミナー（i-Con深化の時代へ）」を開催

開催5年目 i-Conセミナーとして定着



（一社）日本建設機械施工協会中国支部では、4月17日（火）に広島にて、翌18日（水）に松江にて「i-Constructionセミナー」を開催しました。

このセミナーは、「i-Construction」の普及・促進を目的とし、発注機関ならびに施工業者双方の測量、設計、施工、維持管理に携わる技術者を幅広く対象としたセミナーを実施したもので、平成26年11月に岡山で、平成27年4月に広島で開催した「CIM・情報化施工最新情報セミナー」を前進させ、

「i-Construction」が登場した平成28年より「i-Constructionセミナー」としては全国でも有数のセミナーとなりました。

今年の基調講演では、平成30年度の改定部分の解説だけではなく、ICT（ロボット）活用やAI等革新的技術の導入に向けた今後の建設現場の方向性についても解説をいただきました。また、平成29年度創設の「i-Con大賞」を受賞された2社から「ICT土工事例紹介」もなされ、非常に内容の濃いセミナーとなりました。

今回のセミナーは、昨年に引き続き広島と松江の同時期で同じプログラムでの開催となり、参加者も広島会場346名、松江会場171名と500名を超える多大な反響を得ることができました。

セミナーの内容は次の通りです。（講師敬称略）

○「基調講演」：i-Constructionの最新情報

国土交通省公共事業企画調整課 近藤課長補佐（広島）

国立研究開発法人土木研究所 新田上席研究員（松江）

○「講演」：中国地方 建設現場の生産性向上について

中国地方整備局 企画部 赤星機械施工管理官（広島）

足立工事品質調整官（松江）

○「ICT土工事例紹介」：

カナツ技建工業（株） 高橋 広幸（広島）、木村 善信（松江）

○「CIM事例紹介」：（株）荒谷建設コンサルタント 山本 悟（広島・松江）

○「ICT土工事例紹介」：五洋建設（株） 福本 臣起（広島）、小林 隆一郎（松江）



アンケート結果では



セミナーの内容も多くの方から『大変満足』『満足』という意見が寄せられましたが、引き続き『機器ソフトの機能説明会』『実習講習会』の開催要望も昨年に引き続き多く見受けられました。

「i-Construction」は今年「深化の年」と位置付けられています。「i-Con」が施工現場でより深化するように、今後とも当協会はその推進役としての積極的な取り組みを続けてまいります。

国土交通省コーナー

出水期前の災害対策用機械と河川土木機械設備を対象とした操作訓練を行いました。

毎年、出水期前を控えたこの時期に国土交通省職員、災害協定会社や土木機械設備の操作委託者の方を対象として、基本操作の習熟度向上やトラブル対応等の関係知識の習得を目的として実施しているもので、近年は自治体職員の方の参加も増えています。

（１）災害対策用機械の操作訓練

中国地方整備局管内の災害対策用機械を保有する事務所において、災害対策用機械の開発・導入・運用を担当している職員が講師となり開催しました。

参加者は災害協定会社93社約480名、国土交通省職員約250名、自治体からは3機関、約40名の参加がありました。



照明車の設営訓練状況
(鳥取河川国道事務所)



排水ポンプ車の設営訓練状況
(三次河川国道事務所)

（２）河川土木機械設備の操作訓練・説明会

中国地方整備局管内の揚排水機場等を管理する事務所において、ポンプ設備等の機械設備に関する操作訓練、説明会を行いました。

参加者は操作委託者約10名、国土交通省職員約20名、自治体からは1機関、約10名の参加がありました。

この他、河川管理を担当する部署と連携して樋門、水門の操作説明会も実施しています。



排水機場操作説明会
(岡山河川事務所)



樋門操作説明会
(福山河川国道事務所)

災害対策用機械、河川土木機械設備ともに、標準的な操作訓練や説明に加えて、トラブル時の対応方法等についても説明するなど、より実践的な内容になるように努めています。

国土交通省コーナー

災害対策関係功労者表彰

中国地方整備局では、中国地方整備局が行う災害応急対策や防災活動に対する協力又は支援等において特に顕著な功績があった団体や個人を対象として「災害対策関係功労者」として感謝状の贈呈を行っています。

この度は、平成29年12月の尾道松江線吉舎IC法面変状、平成30年1月からの2月の低温・雪害、平成30年3月の国道2号法面崩落に際して、顕著な功績があった66団体に対し、6月25日に広島合同庁舎にて中国地方整備局長から感謝状を贈呈しました。

対象団体	所在地	事 象
(株)加藤組	広島県	平成30年1月から2月の低温・雪害 平成29年12月の尾道松江線吉舎IC法面変状
(株)技工団	山口県	平成30年1月から2月の低温・雪害
大栄建設(株)	山口県	平成30年3月の国道2号法面崩落
大福工業(株)	島根県	平成30年1月から2月の低温・雪害
(株)都間土建	島根県	平成30年1月から2月の低温・雪害
(株)中筋組	島根県	平成30年1月から2月の低温・雪害
松江土建(株)	島根県	平成30年1月から2月の低温・雪害
まるなか建設(株)	島根県	平成30年1月から2月の低温・雪害
洋林建設(株)	山口県	平成30年1月から2月の低温・雪害

※上表は(一社)日本建設機械施工協会中国支部会員を抜粋（五十音順敬称略）。



お知らせコーナー

平成30年度から2級建設機械施工技術検定試験は、年2回試験が実施されます。1回目の試験は去る6月17日に学科試験が実施されました。2回目の試験は以下の予定で、ただ今準備中ですので、追って当協会のホームページに実施内容を掲載します。

平成30年9月18日（予定）（第2回）2級学科試験「受検の手引」販売開始について

9月20日（予定）（第2回）2級学科試験 受検申込の受付開始

平成31年1月20日（予定）（第2回）2級学科試験

3月8日（予定）（第2回）2級学科試験 合格発表

お知らせコーナー

今後の行事予定

日 時	区 分	行 事 名	内 容	備考
平成30年 10月3日(水)	研修会	第69回「新技術活用現場研修会」	新技術を活用(導入)した工事現場等において、活用(導入)の経緯、効果、課題等について研修する。	会員
平成30年 10月24日(水)	発表会	第43回「新技術新工法発表会」 会場：広島市まちづくり市民交流プラザ(予定) 定員：110名	会員による会員自社において開発された「新技術・新工法」の発表会。発表されれば、「中国地方技術開発交流会」への候補として登録される。	会員 及び 一般 (聴講)
平成30年 11月14日(水)	研修会	第6回「土木機械設備技術研修会」	土木機械設備(水門ゲート設備、ポンプ設備、道路付属設備)等の維持管理に携わる技術者を対象とした「研修会」で、建設後の経年劣化や、故障履歴、維持管理の実態等について実際の「設備」を見ながらの研修会	会員

平成30年度「中国地方建設技術開発交流会」の日程が決まりました。

今年度の開催日程は次の通りです。

地 区	開催日時	場所(会場)
鳥取県	11月7日(水) 10:00~16:15	とりぎん文化会館 鳥取市尚徳町101-5
島根県	10月17日(水) 10:30~16:30	くにびきメッセ 松江市学園町1-2-1
岡山県	11月2日(金) 10:00~16:00	山陽新聞さん太ホール 岡山市北区柳町2-1-1
広島県	10月25日(木) 10:00~16:00	広島県民文化センター 広島市中区大手町1-5-3
山口県	10月23日(火) 13:00~17:00	山口県健康づくりセンター 山口市吉敷下東3-1-1

多数の皆様の参加をお願いします。

平成30年度「建設技術フォーラム2018in広島」の日程が決まりました。

今年度の「建設技術フォーラム2018in広島」は、次の会場で開催されます。多数の皆様の参加をお願いします。

○日時：平成30年11月1日(木)~11月2日(金)

○場所：広島産業会館(広島市南区比治山本町)

編集後記

7月6日夜から7日未明にかけて西日本一帯で豪雨による大規模災害が発生し、多くの尊い命が奪われました。特に中国地方特有のマサ土の山肌がえぐり取られ、巨石が流れ出した土石流や、未曾有の豪雨により堤防決壊や広範囲の浸水で、非常に多大な被害をもたらしています。この災害で亡くなられた方々のご冥福をお祈りし、被災された皆様方に心よりお見舞い申し上げます。また、被災地では昼夜を問わず応急復旧・支援活動等に尽力されている当協会の会員の皆様方には感謝の意を表します。

さて、CMnavi49号ですが、5月に開催した通常総会の状況、6月に表彰のあった建設機械施工大賞、この4月以降に中国支部において取り組んだ発表会やセミナーの報告を掲載させて頂きました。業務等の都合から参加出来なかった皆様には、今後も引き続きこれらの開催に努めて参りますので、極力参加して頂くようお願いいたします。

広報部会

平成30年 8月発行

編集・発行 (一社)日本建設機械施工協会中国支部機関誌編集委員会

〒730-0013 広島市中区八丁堀12-22 築地ビル402

TEL 082-221-6841

FAX 082-221-6831

<http://www.jcmanet.or.jp/chugoku/>

E-mail jcma-chugoku@mx41.tiki.ne.jp